

京香…ついに卒業だね
僕は進学しちゃうけど
君はこれから許嫁と……

…そんな暗い顔しないでよ

確かに親同士が決めた結婚相手だけど
どんなことがあっても私はアシタの事が
ずっと好きだから

でも僕は普通の家庭で
生まれた人間だし…



もう まだそんなこと言ってるわけ？
私はあなたの優しい内面を好きになったのよ
家柄とかそんな事は関係ないわ

ありがとう 京香は本当に優しいね

別に…大好きな相手なんだから
普通でしょ？

うん 僕も京香の事が好きだよ



ふふ…それでいいじゃない

これから私はあの大嫌いな許嫁と一緒にならないといけないけど絶対に諦めないから

そしてアンタの元に帰ってくるって約束するわ

ううん…僕はその間にいっぱい勉強して力をつけて将来君を奪いに行くから





その意気よ！待ってるからね…♡

そして卒業後に結婚式が行われ、その初夜……



初夜だというのに
浮かない顔をして
一体どうしたんだ？

はあ？本気で言ってるわけ？
大嫌いなアンタとこれから最悪な行為を
しなくちゃいけないのに 喜んでなんて
いられないわよ！

俺とお前は今日結婚して式を挙げたばかりだぞ？
それなのにいきなり夫に嫌いだなんて冷たいな
それに最悪な行為って：夫婦なんだから
子作りすることは大事な事だろう？

ふん：アンタのその最悪な性格が
私にそうさせてるんでしょ？
こんな奴と強引に結婚させられるなんて 本当最低だわ



京香の家は俺の家よりも格下だが、それなりの名家で俺と京香は将来結婚することを小さい頃から決められていた。つまり許嫁というやつだ。

ふふ：そんなに嫌がつている理由は単に俺の事が嫌いなだけじゃないだろう？お前には学生の時に付き合っていた恋人がいたみたいじゃないか？

っ…！なんでそれを知ってるのよ！

俺を甘く見ちゃ困るな
俺は顔が広いからな
そういう情報は自然と入ってくるのさ



それにしても…ふふ
好き同士なのに卒業と同時に
強引に仲を引き裂かれるなんて
その元彼はさぞ絶望的だっただろうな

式にも呼ばれず 京香にも会えず
本当に惨めなものだ

…アンタのそういうところが
本当に大っ嫌い!!!

今はそれでいいさ



京香はただ単にツンデレというわけではなく
彼女は心の底から俺の事を嫌っている。

彼女と初めて会ったのは10年程前のパーティーだっただろうか。
京香はまだ小さかったが、俺は既に成人に近い年齢だった。

そこで彼女を品定めした時から俺に対する印象は最悪で
それから何度も会ったが
一度も彼女が俺に好意を向けてくれることはなかった。



そして京香が俺と将来結婚することを頑なにしていたのは
京香の両親も知っていた。
だが俺の家の方が力関係は大きい為、断ればどうなるか
容易に想像はついただろう。

だから結局どんなに俺の事が嫌でも運命には抗えなかった。

まあ、そいつと在学中に子供でも作って出産する直前まで隠し通せば婚約も強引に解消できたかもしれないが、流石にそこまでの度胸はなかったようだ。

だが相手は何の力も無いただの一般人だ。そんなことをして俺に齒向かえばどうなるか想像に難くないが。

つたく こっちは裸だっていうのに
お前は普段着とはどういうことだよ

ほら そんなとこにいつまでも
突っ立ってないで 早く裸になって
こっちに来いよ

……嫌よ

一応念のため京香が妊娠していないかは事前に妊娠検査薬で検査をさせて知っている。
今から俺の子を孕むのに他の男の子供がいては邪魔だからな。

俺はこう見えても夜のテクには自信があつた。
俺の家や財力に目がくらんで寄ってくる女は数多で
女には困らなかつたからそれで培つた。

なんだ？俺に脱がして欲しいのか？
いいぜ こっちにこいよ
全く 俺を興奮させるなんて 夫想いな奴だな

っ……！分かつたわよ！
脱げばいいんでしょ！

どんな女も俺のテクにかかれば全員が
俺の前で股を開く淫乱女へと変化した。
だから京香も他の女と同様に屈服するようになるだろう。



…これで満足？

クク…いい身体してるな… 肉つきもなかなか
俺好みだ まさに俺の為に生まれてきたと言っても
過言じゃないな

はあ？馬鹿なこと言わないでよ！
本当に気持ち悪い！

この糞生意気な女を これから二匹のメス豚へと変えてやる！



京香がベッドで俺の隣に座ったところで胸を揉みながらキスをする。

んんッ!?

京香の唇は真一文字に結ばれ、キスを懸命にガードする。
性格同様、ツンと上を向きの美巨乳にも手を伸ばす。

んーっ……んーっ! んんーっ!



嫌がつて身をよじるが、逃しはしない。
舌をねじ込もうとして、せめぎあう。ぺろぺろと唇を舐めまわす。

むーっ！

乳房はまだ少し硬いが、張りと弾力に満ちていた。
沈んだ指が肉に跳ね返されそうだった。



おい口開けよ
デーパーキスできないだろ？

んんっ！

京香は頑なに唇を開かない。舌を入れさせてたまるかと、必死に歯を食いしばる。



スッポンポンになったくせに
今ごろこんなので抵抗してどうすんだよ？

んんッ！ んーっ！

京香が悔し気に震えた。そのちぐはぐさが、おかしくてたまらなかった。



べろ出せよ お前の相手はこれから死ぬまで俺しかいないんだからさ

受け入れて楽しめよ クク…

んーっ！

相も変わらず、俺を刺すような目で睨み続けている。



俺やお前の両親も『早く孫の顔が見たい』って
言ってたろ？

いつまでもデキなきや そのうち言われるぞ？
正月とか盆とかになークク…

……っ

その一言で、京香が固まった。
いくらじゃじゃ馬でも、結局はお嬢様。親の意向に歯向かうことはできない。



あ
はあん……っ！

抵抗が弱まったところで、乳もみを強めてやった。
不意打ちの快感で、とうとう、唇が少し開いた。

んっ
んんっ！
んぶっ！



すかさず舌をねじこみ、口中をねぶりつくす。
口の中も性感帯だと、教え込んでやるように。

んっ
んんっ！
んふーっ！

甘い、桃のような匂いがする京香の吐息。それが、だんだん、熱く乱れだした。



はあ はあ……え……ッ

へなへな、と、京香の上体が後ろへ倒れて、崩れ落ちた。
俺は、荒く息をつく彼女に、のしかかった。

いいやあ！ 汚い手をどけてっ！
そこはアンタごときがさわって良いところじゃっ……

へへへ 前戯の続きをしてやるよ
もっと気持ちよくなつて 俺のチンポを受け入れるんだ



ディープキスと胸揉みは、強張っていた京香の体を多少は緩ませたらしい。指先にしっとりした湿り気が伝わる。

中少し濡れてるじゃねえか
キスしながら胸を揉まれて
興奮したのか？

ちちがつ！ そんなわけない！
ひっ……あっ！

包皮に隠れたクリを転がし
レロレロと乳首を舐めまわし、追及する。

ひひいつやあ
それやめて……！

二か所への同時責めは、どうやら効果てきめんのようだ。
思った以上に感じる反応に、にやけが止まらない。





良い反応だな
クク：俺の為に彼と開発でも
してたのか？

夜の花嫁修業
頑張ってたのかあ？

そそんなわけあるかあつ…
…」このエロ猿っ……

手を離せヘンタイっ……
ああっ んんっ……

事実と逆のことを言われ、なじられているのに
京香の体は俺の指に反応し続け、感じ入った声を漏らしている。

ナニ言っただ
お嫁マンコをほぐすのは
新郎の義務だろ？
俺の愛で 感じてしまえよ

き 気持ち悪いことっ
…い 言うなあ……

あ あう……っ
あっ あっ……は あっ は ああん……っ



次第に、京香の顔がとろん、とし、罵声のトーンが落ちてきた。
もう、喘ぎ声を隠せなくなってきた。

いい反応だなあ イクときはイクと言うんだぞ？
それが妻たる者のセックス作法だからな

あ あんたで あんたの汚い手で触られてっ…
…いいイクわけないっ！





ひっ!?
ううっ あっ あふうっ……

いやっ やめてえ もうやめてえっ
だめえ……あああん!

あ あっ! やあっ……

京香の瞳が潤みきり、頬は紅潮し
いきそうなのを懸命にこらえている。

さあ言え イクと言え！
言うんだ！

あつ ああん！
いやあ イきたくない イきたくない！

あんたにイカされるのはイヤああ！！



乳首を強く吸い上げ、クリトリスをしごく手を速めた。

あぁっ
あぁーっ！

嫌っ
イツちゃうっ！

びくん、びくん、と体を震わせ
京香は強いられたアクメに到達した。



はあ
はあ
はあ……

京香をイかせた俺は、股を開かせた。
茫然としている京香は、それに気づいてもいなかった。

見えるかあ？ とろとろマンコのお口が開いて
えっちなヒダヒダがのぞいてるぞー！



えっ…や やめてよ！
女をこんな格好にさせて辱めるなんて
本当に最低！

なに言ってるんだ？
これから お前と俺の愛の結晶を
仕込むんだぞお？
その光景をお前も見たいだろ？

見たいわけじゃないでしょ！
アンタとなんて愛は一切ないし
妊娠なんてしないから！



本格的な凌辱宣言——
いや、子作り孕ませセックス宣言に、京香が声を更に荒げた。

彼以外のチンコがここに初めて
入るのをよくその目に焼き付けて
おけ

お前の一生の旦那となる
この俺の顔ごとな……

うるさい！
この腐れサディストっ！



もちろん、抵抗は無駄だ。
ここまで来て、思いとどまる男はいない。

いたい痛い
あああああ！！

愛液で濡れた俺の嫁マンコは
ゆつくりと俺のペニスを包みこむかと思いきや――

ぶちぶち、と処女膜を引き裂く感触が、先端に伝わった。





：はは なんだ京香
お前処女だったのか？

てつきり彼とヤッてたもんだと
思ってたぜ

うるさい！あの人にはアンタみたいな野蠻なやつと違って
学生の間は不純な行為はしないって言ってくれたんだから！

京香が処女だという事実と、その内容を聞いて、俺は思い切り
口角が上がった。

やつの顔はこいつといるところを隠し撮りさせた写真でしか
見たことが無いが、俺に最高の思いをさせるために動いてくれた
ので、そいつを褒めたたえてやりたいとさえ思った。





そんなに涙を浮かべる位に感動してるのか？
これこそ 本物の新郎と新婦の共同作業だな

痛いっ！

やめてよ！そんなに 乱暴に
腰をつ 振らないで！

いつも強気な女が必死に哀願する様子に、黒い優越感が湧いた。
余裕を持って、ぐりぐりと中をえぐる。



じゃあこれぐらいの方が
感じるのかあ？

そんなことっ あ あん……っ

ペースを緩めてやると、痛みが減ったようだが——
そこへ、未知の快樂が忍び寄って、京香を不意打ちした。

優しくしてもらったほうが気持ちいいとか
カワイイなあ 京香は

あそ
んそうじゃないっ！
あん……

からかい気味に口にしつつ
ゆるゆると京香の中を味わう。

京香ちゃんのイイところはどーこだ？
ほらほら





あ あん……ゲ ゲス野郎っ！
そんなことっ しなくていいってばあ！

もつと痛がるかと思ったが
前戯を丁寧にしたのがよかったらしい。

それにしても 良く締まるなあ

俺とするのが嬉しくて
締めてんの？

あ そんなわけあるかああ！
あ あんっ……

とろとろに濡れてはいても、やはり処女。
油断すると射精しかねないほど、よく締まる。

それとも さっき
イカされた恩返し？ 健気じゃん

しんしんしまえクソ男お！
んんっ！



オマンコがチンポに馴染んできたようだ。
どこか、いいところに当たったのかもしれない。さあ、頃合いだ。

さあ 受精のお時間だ

京香の子宮で
しっかりと受け止めるんだぞ？

っ!?





嫌がる様子を見ていると、燃えるものがあつた。
ずん、とひときわ深く、腰を深く突き入れた。

アンの穢れた子種なんかいらない！

やめてよ！中に出さないで！



俺は、たつぷりと京香の中に子種を注ぎ込んだ。
子宮に、隷属の刻印を打ち込むように。

いやあああ！



射精を終えた後もすぐには引き抜かず
そのまま少しだけの余韻をじっくり味わい尽くす。

はあ...はあ...

ふー...
これまでに一番最高の中出しだったぜ...

クク…大量に中出ししたから
マシコから俺の子種が垂れてきてるぞ

今ので ちゃんと受精したかあ？
どう思う？

はあ…はあ…最悪…

京香を征服した歓びに、俺は酔い痴れた。
外見は俺の好みなのに手が届かない、そんな娘だったからだ。



京香は唇をかみしめつつ、五体を投げ出し、横たわっている。
オマンコから、逆流した精子が垂れてきた。

これから毎晩
お前をかわいがってやるからな？

メシは精がつくやつを頼むぜ？
期待してるよ

くう……っ



自分を犯す男への屈辱的な奉仕の日々を暗示されて
京香が『びくり』と反応した。
だがコイツはもう逃げられない。

そんな目をするなよ 俺たちや夫婦だ
早く 親に孫を抱かせてやろうぜ？ハハハ

そんなの絶対に嫌よ…
アンタとの子供なんかっ…!!

相変わらず憎まれ口をたたいてはいるが
行為前の勢いはない。このままコイツを開発していけば
俺が主導権を握れると、確信した。



そのうち気持ちよくなって クセになるかもよ？
若い女ほど 目覚めると スゴイらしいからな

ならないっ！
あんたみたいなスケベじゃないっ……
わたしはそんな女じゃない！

妊娠するまで頑張ろうじゃねーか
明るい大家族は大歓迎だ！はははは！

高笑いをする俺を見る京香の瞳に
いつもの瞳の力はなかった。



その翌日、アイツが居ない間に彼に電話をかけた。

…もしもし ○○？ 私よ 元気？

うん 元気だよ
京香はどう？ 辛い思いしてない？

…ええ アイツと居るのは
本当に最悪だけど 大丈夫よ



そっか…ごめんね 何もできなくて…

そんなことないわよ

アンタとこうして話ができたり
いつかアンタの元に帰れるって思ったら
頑張れるんだから 凄く力になってるわ

うん ありがとう 凄く嬉しいよ



……それでね
今日LOOEじゃなくて直接アンタに電話したのは
報告しておかないといけないことがあったからなの

えっと……うん
あもしかして結婚式の事？

…僕は行けなかったけど
その…京香の顔は見たかったよ…
卒業式以来 ずっと会えてないから…



私もアンタに会いたいけど
あの最悪な姿は見せたくないわ

あんなの私には苦痛な
儀式でしか感じられなかったし

私のウェディングドレス姿は
アンタとの結婚式で見せたいって思ってるから
その時を楽しみにしておいて



嬉しいよ…京香

うん 楽しみにしてる
それで、それが伝えたいことだったのかな？

…ううん その事じゃないのよ
…そのえつと…怒らないでね？

う…うん…



私 あの最低な奴との式の後
早速新居で……子作りしたの

それで私の処女を
アイツに取られちゃっただけじゃなく
中にまで出されちゃった……
それに、気持ち悪く舌を出してきて
ディープキスもされたし……

……そうなんだ……

……うん 結婚するんだし当然それは
通過しなくちゃいけないから
いずれあるだろうって 覚悟は決めてたよ

でもまさかこんなに早くなんて
思わなかったけど……



…ずっとアンタにこの処女をささげたいって
思ってたのに 本当にごめんね
幻滅したでしょ？

ううん 卒業前にも
ちゃんと一緒に話し合ったよね？

こっぴどいことになっても
僕は京香の事を絶対に嫌いにならないって

ありがとう…でもやっぱり思ったわ
私 無理やりにでもアンタと…その
シておけばよかったって…



気持ちには凄く嬉しいよ
でも京香は家の方から結婚するまで貞操を守る
ように言われてて 恋人を作るのさえ禁止されてたし！



それにもし貞操を守らなかつた事実がその人にバレて
そのことをもし両親にでも告げられてしまったら
それこそ僕と京香が結ばれることが難しくなると思うんだ

だから僕も凄くしたかったけど
君との将来を考えて我慢したいって思って
僕の方からお願いしたんだし！

そうね アンタのそういう誠実で優しいところが
本当に大好き♡

僕も大好きだよ 京香

これから何度もアイツとその最悪な行為を
しなくちやいけないけど 絶対にあんなやつに
身も心も捧げるつもりはないから

それに あの計画も
順調にできてるから...



うん：それは良かった
情けないけど今は京香が頼りだよ
僕にできることがあったら何でもするから相談して欲しい

うん ありがとう 大好き…♡



あれからも俺は、京香に種付けセックスを続けていたが
なかなか従順にはならない。

だから、未だ反抗的で勝気なおさな妻に
奉仕セックスの精神を叩き込むことにした。

たとえば、減らず口がたえない、このナマイキな口を……。



ほら ほろっ！ いいぞ！

だんだん口がマンコみたいになってきてるぞ！
成長したなあ！

頭をつかまれ、イラマチオされる京香は苦し気だ。

舌使いが追いつかないおぼこな口中を
勃起しまくったペニスが犯しまくる。



今からこれだと
将来が未恐ろしいな
教えがいあるってもんだ

んんっ んむうっ！

ガンガン突きこまれて、京香は刺すような強い目で
俺をにらみつける。



今では、『お前』と呼び捨てる関係になっていた。

俺のチンポのお味はどうか
おいしいかあ？

んんーっ！

嫌悪に満ちた顔が楽しくてしょうがない。



結婚するまで、こんな風に京香を弄ぶことなど
思いもよらなかった。

へへっ！
さあ お前の大好きなミルクを飲ませてやるよ

全部飲むんだぞ！ 教えた通りにな！

んんっ！ んんっ！



恐らくは『出さないで』と言っているのだろうが
もちろん、そんなお願いは聞いてあげない。

うっ 出るっ！

んん——っ！ んんぷう！？

たっぷり、京香の口の中に放出してやった。



ほらちゃんと飲むんだ
じゃないとこのまま離さないぞ？

んむっ……んっ……んぐ……

俺を睨みつけながら、京香は口内に発射された精液を
飲み干していく。



ほらっ！
今日の種付けタイムだぞっ！

今日は気分を変えて
犬のような恰好で犯してやる！

いやあ！？
なにをするのっ！？

既に、愛液をたたえたオマンコは、ぬるり、と俺のチンポをくわえ込んだ。



ひっ こっ こんなあ
けだモノみたいになっ ポーズでえ！

お 犯されるなんてえ……っ！

潔癖な京香には、尻の穴まで相手に見せる
体位など、思いもよらなかったろう。

人間だって動物なんだぜ？

京香もありのままを
俺にさらけ出せよ



あ
あふっ……

こっこっ このっ エロ猿っ！
アンタと一緒にはしないでっ！

上から京香を見下ろすと
改めて、十代らしくむだなぜい肉のついていない腰のくびれが目だつ。

張りがあって
シミ一つない若い尻も、形が良い。



興奮した俺のチンポは、京香の中で、どんどんたくましくなっていく。

お前が毎日 いいメシ作ってくれてるおかげで
体調が良くなってな！ 勃起が止まらないんだよ！

いやあ また大きくなつて……
一回出したからもういいでしょ!?

え えっちなことしか頭にないのっ!?



京香は必死に片腕を伸ばし、俺を突き離そうとするがその腕を逆につかんで、ピストンする。

あっ！あっあっあっあ♡

京香のスケベマンコの具合を見て突っ込まないわけないだろ？ もったいない

余裕を持って、京香の性的な反応を指摘してやると——ぎくつとしたのか、一瞬、動きが止まった。

へっ 京香 俺に口をオナホ代わりに使われて
濡れてたよな？

はあ！？
そんな馬鹿なことがあるわけ…
…んんんう！！

毎日の夫婦の夜の営みで、イラマを仕込んできたせいだろう。
しゃぶらされたら、セックス。



心は嫌がっても、体はそう覚え込み
俺を受けいれる準備をするようになったきたのだ。

犬のしつけと同じだ。京香が、条件付けの罠に
はまりだしたことに、内心でほくそ笑む。

だから嘘なんか
つかなくていいんだって

俺にだけ見せろよ
その淫乱な顔を

う　嘘なんかついてない……っ
あ　あ　あ　く　う　う　い　い　や　っ　……



最近は、京香の弱点と、好みの往復ペースがだんだんと分かってきた気がする。

ゆるゆると突きまわして、まだ未熟な体に快樂の芽を育ててやる。

俺のチンポはいつでもウエルカムってかあ？
じつに良くできた妻だな 京香は！

ち 違う 違うわっ！

あんながあんながするからあ…
…っん っんっ！



少しずつ、性感がきざしだしたようだが、京香は必死に抑え込んでいる。

最近は よがり声まで出すようになってきたじゃないかよっ！
ほらっ ほらっ！

あんっ！
ももお
いだだから
いい加減にっ

はっ
はっ
あっ
ああん……ッ



ストロークを速めて、京香の嘘を突き崩しに行く。
だんだんと、声が漏れだしてきた。

へっ もっと素直に
なっちゃっていいんだぞお？
そのほうが楽しめるんだからな？

ああっ くっ
ちよ…調子に乗るなあっ……





あうう あっ あっ……

う……くっ！相変わらず良く締まるなっ……
…さあ 今日も中出しだ！

ひいっ！ いやっ！
またあっ……！！

やめてっ やめてええっ……！！

俺は子宮奥まで届くようにチンコをねじ込み、大量の精液を放出する。

いやっ……!

ああああああ——っ♡♡♡



へっ また俺の精液が
すっかり奥まで届いたみたいだな

はあ はあ はあ……っ

尻を突き上げて、なにもかもを
余さずさらけ出した破廉恥なポーズのまま
京香はへたりこんだ。



すっかりと放心し、焦点が定まっていな瞳。

そして俺が射精したオマンコから
とろとろ、と白濁が逆流してくる姿のコントラストは
最高にそそる。

このポーズほど、京香が俺に服従しているとい
うことを示すものはなかった。

イラマチオで回の中を好きに使われて、その後には
バックでさんさんに犯されて、それでも耐えたものだ



京香は、先ほどからずつとはあはあと息を切らしている。
恐らく、体力も使い果たしてしまったのだろう。

明日からも
また頑張ろうな？

子どもの名前つけるの
超楽しみだよな？

おれはそこまで頑張った
愛する妻にそう言ってやった。

……お 鬼っ……鬼畜っ……



そしてその翌日、またアイツが居ない間に私は彼に電話をかけていた。

：もしもし○○？
どう？大学での生活は順調？

京香：うん 順調だよ
勉強にもしつかりついていけるし
友達もできたりしたよ

：でもやっぱり
京香が居ないと寂しいよ

嬉しい：私もアンタに会えないのが
本当に寂しい
：彼女とかできたりしてないでしょうね？



そんなの絶対に作らないよ
僕は京香一筋だから

嬉しい！本当はこんなこと言える
立場じゃないのにごめんね？

そんなに思いつめないで
京香と付き合ったときだって僕は君に許嫁が居ることを
知った上で覚悟してお付き合いしたんだから

うん…でもありがとう



私はアイツが居ない時を見計らって
定期的に彼に電話をしていた。

彼と電話したいのは心の底からそう思ってるけど
それくらいしないと自分が保てそうになかったから
かもしれない。

…それで 京香の方はどう？
生活もそうだし 無理やり嫌な子作りをさせられて
辛くないかすごく心配だよ…

うん 大丈夫
大体生理だって告げる時以外はほぼ毎晩子作り
させられているけど 私はずっとアンタの事を考えながら…
なんとか頑張ってるから…



彼との電話は、あの楽しかった日々に戻れたようになれて本当に嬉しい。

だけど最近少し気になることがある。彼が私とアイツとの子作りの内容を聞いてくるからだ。

嬉しいよ 京香…

：でもその人はそんなに毎晩のように子作りを求めてくるなんて本当に性欲が強い人なんだね？

…え？…そうね
毎日のようにしてるのに 本当猿みたいに
2回3回出してもまだ求めてくるわ



……そうなんだ　すごい性欲だね
僕には無理……かも

それだけさせられて　京香が少しでもその……
感じたりとか　してないか不安だよ

……そんなことないわよ
あんなの本当に子作りだけの行為ってだけで
全然気持ち良くないし……

でも……声とか　出ちゃったりするんだよね？



え...?
た...確かに声は出る時あるけど
それはアイツが乱暴にするから出るだけで...

...やっぱり出るんだ...そっか
はあ...はあ...

...ちよつと〇〇?
さつきから息が荒くない?

え...?えつとごめん
許嫁とはいえ京香が他の男とそんなこと
してるのを想像したら気持ち落ち着けるのが
少し大変で...



…そうよね ごめんなさい

別に〇〇を傷つけたわけじゃないのよ
もう言わないから…

ううん ちゃんと話して欲しいんだ

じゃないと僕と一緒にいた時に
内容を知らないままだと
ずつとヤキモチ妬いちゃうと思うから…

そう…?でも凄く辛そうにしてるし…
私 アンタにだけは嫌われたくないわ



絶対に嫌いになったりなんてしないよ
だからお願い：全部話して欲しい

う…うん わかった…

ありがとう
：それでその人って やっぱり京香の事を
乱暴にしてくるんだよね？

そそうね…昨日もアイツに頭を掴まれて…
そのアイツの汚いアソコを無理やり
口の中に何度も挿れられたわ…

アイツのつて無駄にでかいから喉奥まで入ってきて
凄く吐きそうになっちゃって…
それに 最後は大量に口内に出されて
精液をそのまま飲まされて…



その後はバックで何度も痛いくらいに
奥まで突かれて勢いよく奥まで中出しされたし…

そう…なんだ…

う…そんな乱暴なことまで…
許せないよ…はあはあ…

大丈夫？本当に辛そう…
やっぱり私…これ以上は…



…ううん 大丈夫だよ…

ただ 京香がそんな目に合ってるなんて
怒りを抑えるのが大変で…
僕は 京香にそんな乱暴な事はしないからね

ありがとう
アナタと結ばれたときは
私の方からいつぱい尽くしてあげるからね ♡

嬉しいな… それで あの計画はどう？



うん 大丈夫
今のところ問題なく進んでるわ

アイツも本当に哀れよね
私がこんなことしてるとも知らずに…

そっか 良かった
でも そんなに大胆な事をしてバレたりとか
しないか心配だよ…

大丈夫 たとえ もしバレたとしても
また対策を考えればいいんだし それがキツカケで
離婚に発展するんだったらむしろ好都合だから



そっか…僕は何もできなくて本当に辛いけど
京香が僕の所に来てくれることをずっと願ってるから

うんそれだけで十分よ
待っててね○○♡



はあ…はあ…京香っ……

電話を切った後、俺は自分の惨めな勃起。ペニスをシコっていた。

先ほど京香が言ってた旦那との子作りの内容を
思い出しながら…

京香から話を聞いているときも、僕は興奮を抑えられなくて
その時から既にしごき始めていた。
僕の様子に京香は心配してたけど…

それにしても 旦那って身分だけじゃなく そっちの方も
凄いな...
性欲も強いみたいだし 僕のモノと違って大きいみたいだし...

京香が乱暴にされているのは辛いけど
それでも京香から聞く内容を想像してしまつて不覚にも
興奮していた。

彼女が初めて旦那としたという事実を聞いた時
僕は凄くショックだった。覚悟していたけど、電話を切った後は
暫くふさぎ込んでいた。

だけどその日の夜、京香は今頃旦那とまた
子作りをしているのかなと考え始め、それを想像していると
思わず興奮してしまったのがキツカケた。

相手の顔は、在学中に京香から写真を見せてもらったことがあるので知っていた。それだけにあの写真の人としてゐるんだと
容易に想像ができてしまったので、なおさらかもしれない。

それ以来、京香が子作りの事を口にするたびに
僕は凄く興奮するようになってしまった。

京香…京香…うつ…はあ はあ…

ついに僕は京香への妄想を抱きながら果ててしまう。

……はあ僕はなんて情けない男なんだ
彼女を奪う事も出来ずただこうして彼女の子作りの内容を
聞いたり想像するだけの日々を過ごすなんて…

射精後の賢者タイムでいきなり押し寄せてくる無力感。

京香は僕の所に戻って来てくれるって言うてるけど
モノもこんなに小さくて細くてふにやふにやで情けないし
大体オナニーも1日1回が限界だから何度もしないだろうし…

そんな僕とエッチしても 京香が満足できないかもしれないし…
それに財力もないし…

無気力の中で考えることは、卑屈な事ばかりだった。
彼女は本当に高嶺の花だ。そんな彼女と付き合えただけでも
本当に幸運だったと思う。

今は会えない日々が辛いし、彼女と一度も肌と肌を
重ねることができなかったことが悔やまれるが
それでもいいんじゃないかとさえ最近思い始めていた。

うう…京香…たとえ君に子供ができても
完全にあの人のものになつたとしても
僕の気持ちは変わらないからね…

それからもまだまだ、強制種付けの日々は続いた。
これだけ種付けすれば簡単に妊娠するだろうと思っていた。

しかし、初夜から約3か月経ったが
京香に散々中出しを重ねてきたものの
まだ妊娠はしていない。危険日は特にたっぷり中出し
してやったのに、だ。

不思議に思った俺は、念のため京香が風呂に入っている間に
コソコソ部屋の中を調べてみた。
すると棚の一番奥の隠されたスペースから、ピルを発見する。

…京香のやつ俺に隠れてこんなものを飲みやがって…

俺を騙したことに腹が立ち、問い詰めてやろうかと思ったが
コイツに痛い目を見せるために、こっそりと偽薬に変えて
やるのはどうだろうかと妙案を思いつく。

クク…俺を出し抜いたことを後悔させてやるからな…

そして俺は京香の服用しているピルをこっそり偽薬に変えることに成功した。

ピルを止めたことで生理が来ておかしいと思い、もしかしたら内緒で処方してもらっている医者に相談するかもしれないが、それでもちゃんと飲んでいると伝える以上、様子を見て欲しいと言われるくらいですぐには分らないだろう。

かなり大掛かりにはなったが、俺を騙した京香にはこれくらいキツイ制裁を加えないと気が済まなかった。それくらいに俺は怒っていた。

それにアイツはそれで俺を出し抜いていると思っているだろうし、他にこざかしい策を考える事もないだろう。

俺の精子の運動率は90%以上と言われているし、アイツも妊娠する上で身体には問題ないと婚姻前の検査で分かっているの、妊娠可能になればあつという間に妊娠するだろう。

だが万が一すぐ妊娠しない場合、何度も普通に生理が来てさすがにバレル可能性はあるかもしれないが、もしそうになったらそこで初めてバラせばいい。

クク！妊娠したのを知った時の京香の絶望した様子を見るのが楽しみだぜ！！

そして、ピルを偽薬に変えてから、そろそろ妊娠可能時期になった頃…

こんなことに私の胸を
使いたいとか
あいかわらずヘンタイで
サイテーね…

京香はイヤイヤながらも、全力で抵抗したりはしない。
こうして、ご奉仕プレイにも応じている。



俺にイヤイヤながらも服従する様子を見せておいて、俺を
油断させるといった魂胆だろう。まあ、実際に俺もこの態度に
少しは諦めがついたのかと騙されてしまったわけだが。

んっ
んっ
んっ
んっ…

クク……そんな浅ましい考えも今日で終わりだ
偽薬に変えることに成功したし 今日で絶対に孕ませてやる



京香の避妊計画に気づかないふりをしつつ
内心でニヤニヤしながら今押し寄せてくる快樂に身を委ねる。

いつまでの子供ができないということになれば
跡継ぎ問題で離婚も考えなければならぬ。
だが一度子どもが出来れば、どうあがいても
一生俺の妻として子を育てていくしか道はなくなる。

そうすればコイツの心はぽつきりと折れ
完全に京香は俺のものになる。
そしてその後は俺好みの女に変えていく予定だ。



ふふ…… お前の今の姿を元彼が見たら
どんな顔をすんだろな？

知らないわよ……

少し、怒った様子で京香はそう言って
胸の谷間で俺をしごく手を速めた。
まだ元彼への恋心は捨てきれないようだ。





風俗嬢顔負けの濃厚サービス
マジで俺好みだよ

夫婦円満セックスライフ
間違いなしだな

アンタがそうさせてる癖に…

誰がしたくてこんなことをするかっ！



くっ…そろそろ出そうだ

イクぞっ！

ふん さっさとイキなさいよ
この早漏

びゅくっ！びゅくっ！生意気な事を言うメス豚の顔面目掛けて
思い切り精を放つ。



今に始まったことじゃないけど
顔面に出すとか本当に最低！

んんっ……！！

射精後、身を起こした俺は、足を踏ん張って京香の体を下から抱え上げ彼女の背中を壁に押し付けて固定しながら挿入する。

ええっ！？ きゃあっ！

さあ さっそく2回戦と
行こうじゃないか



初めての体位に戸惑いながら、京香は心底嫌そうにして抵抗する。

やめてよ
こんな格好でするなんて……!!

アンタと抱き合いたくなんかない!



セックスしてだいたい経つのに
全然妊娠しないからなあ

そそれは……
でもやめてよ……あ あっ……あっ あっ……

もっと中出しの回数を増やすために
マンネリ化しないようにすることが
大切なんだよ

妊娠していないという話をすると少し動揺した態度を見せる京香。
ピルを飲んでいるのを悟られたくないのだろう。
そのおかげでこの体位でするのを嫌がることはなくなった。



この体位 お前の体重が俺のチンポに乗るだろ
奥まで入って 孕むにやもってこいだぜ？

あっ…あっあ…勝手に言ってなさいよ
この変態っ…

ふん…そうやってせいせい色々と奮闘してなさいよ
私は絶対に妊娠しないから

ほら さっそく最初の中出しだ！

んああつ………！！

京香が内心で妊娠しないことを安心している中で、俺は今日こそ孕むように奥に突き刺し、子宮へと子種を確実に届ける。

時期的にこれがピルの効果が切れているときの
初出しだろうな
：クク 妊娠が発覚したときのこいつの顔が見ものだな！

まだまだイクぞっ！

あっ？！

駅弁から一転、京香をベッドに横に押し倒した。
体勢が崩れて、腕の突っ張りが外れてー。

側位からの突撃には
京香は全く抵抗する術がなかった。



くうっ……んっ！
あ あああっ あっ あっ！

ベッドが音を立てるほどの勢いで、激しく側位で突きまくる。

もう終わりだと思ったか？
今日は確実に孕ませるって決めたからな
お前がイクのもお構いなしに連続中出し
してやる



ここんなので
イクわけないでしょっ！

このおクソ男おっ…
…あっ あっ ひっ…

なあ お前は何人欲しい？俺は何人でもいいけどな！
最低3人ぐらいは作ろうぜ！

あっ あんつか勝手に…他人の体でっ
出産の予定をつ立てるなあ…んっ！



何とでも言えよ
これから本当に
それが実現するんだからな！

何せ。ピルを偽薬に
変えてやったからな
言葉通り本当に実現するわけだ

さあイクぜ？
着床しろよお！それっ！

あああつ！嫌っ……！
あああ——っ……！



ふー…
残り汁の一滴まで
ちゃんと受け止めるんだ
妊娠を更に確実にしないとな

嫌…やめてよ…このクズ男…!!
そんなに出されたら本当に妊娠しちゃうじゃない…

そうだな これで本当に妊娠するだろうな…クク

ふん そうやってせいせい私を孕ませる妄想でも
してればいいのよ
絶対にヨイツと離婚して 彼と一緒になるんだから!!



そしてあれから1か月以上経過した頃……

うう…気持ち悪い…

なんだか最近身体の調子も悪いし…
どうしちゃったんだろう？

私は原因不明の体調不良に見舞われていた。
症状がなんとなくつわりに似ている気がするけど
そんなはずはない。ピルを飲んでいるのだから。



…気持ち悪いだつて？

えっ…？あ 別になんでもないわよ！

なんでもないわけはないだろう
それはもしかして つわりじゃないのか？

はあ？そんなこと絶対にありえないから！



ん？なんで絶対にありえないんだ？

あれだけ中に出しているというのに
何か理由でもあるのか？

えっ あ…なんとなくよ！

アンタなんか妊娠させられるほど
私の身体は落ちぶれてないから！



ふーん そうか…
なら検査してみたらいいじゃないか？

えっ…？

『えっ？』も何も別に検査してみれば
わかることだし簡単なことだろ？

そうだけど…



ほら 検査薬を買ってきたから
さっそくこれで検査をするんだ

えっ…なんでそんなものを
買って…それに今するの？

当たり前だろ 俺はお前の夫なんだぞ？
一緒に妊娠していることを喜び合いたという
気持ちは至極当然の事じゃないか

わ 分かったわよ…

絶対に妊娠しているわけないのに…
まあそれでヨイツも諦めつくでしよ



よし それじゃ早速
今から風呂場に行くぞ

えっ…なんで風呂場に行かないといけないのよ？

検査をするためだよ
おしっこしないといけないだろ？

それはそうだけど
なんでトイレじゃなくて風呂場なのよ？



なんでって 俺が検査をしてやるからに
決まってるだろ？

はあ？そんなの絶対に嫌よ！
何考えてんのよ 馬鹿じゃないの？

妊娠が判明した瞬間を一緒に喜び合いたんだよ
夫として当然の事だろ？

だとしても
アンタの目の前でおしっこなんて嫌



ウダウダ言うんじゃねえよ
最初からお前に拒否権はないんだよ

それとも今すぐ縛られてニミで強制的に
失禁するまで放置されたいのか？
へへ俺は別にそれでもいいぜ？

くっ…本当に最低な男…!!
分かったわよ!



そして俺たちは風呂場へとやってきて、京香にスカートを
たくし上げるように命令する。

よし、いいぞ
次はパンツを下ろすんだ

はあ…こんなこと ヨイツの前で…屈辱だわ



京香はあくまで俺を睨みつけながら、パンツを下ろす。

へへ…いいじゃねえか
その姿なかなか興奮するぜ？

くっ…!!

さあ 放尿してもらおうか？



だが、しばらく待ってみるものの、おしっこを出す気配はない。

ほらどうした？
出ないのか？

…いま出すところよ

出そうと思ってるのに出ない…尿意はあるのに…
やっぱリコイツの前だからよね…
人前でするのも恥ずかしいのに…



そうして30秒程沈黙が続いただろうか。
ようやく京香の尿道からおしっこが出てきた。

んんっ……

やっと出たな
クク：顔を赤らめてなかなか
そその顔を見せるじゃねえか……

うるさい……
早くしなさいよ……!!

京香は初めての人前での放尿にとっても恥ずかしがっているようだ。



言われなくても今検査してやるよ

俺は早速妊娠検査薬の先端を
放物線を描く尿にひっかける。

最悪…何でこんな事まで…
これから定期的にこれをするとかしないわよね？
嫌すぎるわ……



そうして放尿が終わり
しばらくの間、線が浮かび上がるのを二人で眺める。

1本線なら陰性
2本線なら陽性だが…
さて結果が楽しみだなー？

ふん、妊娠するわけじゃないでしょ？
ピル飲んでるんだから…
せいぜい残念がつてなさいよ



そして浮かび上がった線は2本
つまり妊娠しているという結果が出た。

お！見ろ 妊娠してるぞ！
はは やったなあ？

……えっ

嘘でしょ？
本当に 妊娠してるの…？

絶対に妊娠してない自信があっただけに、妊娠と
いう衝撃の結果が飛び込んできたので現実を
しばらく受け止めきれず、頭の中が真っ白になる。





.....ぎゅぎゅぎゅ.....

そんな顔してどうしたんだー？
ほら見ろよ 妊娠してるぞ？

…どうしてピルを飲んでいたのに
妊娠なんて…って思っているんだろ？

っ…！な　なんでそんなことを
アンタが知って…

優秀な精子を持つこの俺が3か月も
中出しを続けたのに妊娠しなかったんだ
そりゃおかしいと思うだろ

それともこのままずっと
俺が気づかないとでも思ったのか？

「えっ…でも　どうしてそのまま……
って　まさか…！」



はは 気づいたようだな
そうだ お前が飲んでいたピルは偽薬だったんだよ

っ！し 信じられない！
最低っ！

最低はどっちだよ？
俺に黙ってピルなんて飲みやがって
どうせ妊娠しないことを理由に
離婚でもしようと思っていたんだろ？

残念だったな これでお前の夢は
潰えたわけだ ハハハハ！



確かに途中生理みたいなのってきたことあったけど
あれって偽薬で効き目が無くなってたからだったんだ！
体に合わなくて不正出血してるんだと思いきょんで見過ごしてた！

うう…最悪…最悪よ…！！

ハハ！泣くほど嬉しいか？
そうだよなあ俺との子供なんだ
それくらい嬉しいがって貰わなくちゃ困るぜ

さーてこれから両親に報告しないとなあ？
これで無理やりおろすこともできなくなるぞー？

うう…うう…うう…

彼とはもう結ばれないの？
私…この人と一生生きていかないといけないの？そんなの嫌よ…！！



私はその後、妊娠した事実を報告するために彼に電話をかける。

「うう…うう…うう…
うう…うう…うう…」

どうしたの？京香…何かあったの？

ごめん 私…妊娠しちゃった…

えっ………？



ピルをコッソリ飲むっていうあの計画がアイツにバレて…
逆にコッソリ偽薬に変えられて…

それに気づかずに私 飲んでるものだと
思い込んで それで失敗して…

そ…そうなんだ……

うう…本当にごめんなさい…
私 アナタと結婚する日を夢見てずっと頑張ってたのに…



ぼ 僕も…はあ はあ…京香と結婚できる日を…
ぐすつ ずっと夢見ながら過ごしてたよ…

うん…うう…そうだよね…
待っててくれたのに 本当にごめんね…

○○ 泣いてる…当然だよね…私やっぱり最低だ…
○○ こんなことなら結婚せずに○○と駆け落ちしておけば
よかった…

ううん 大丈夫だよ…ぐすつ…
僕はやっぱり 君とは不釣り合いだって
思ってたから…はあ はあ…



そんなことないって何度も言ってるじゃない
家柄とかそんなの関係ないわ

私はアンタの 優しくて誠実なところが
好きなんだから...

はあ...はあ...





えっ？どついでに？

：僕は君に
謝らなければならぬことがあるんだ…

……○○？さっきから何をしてるの？

：僕は 君が旦那と子作りしていることを知って…
それを想像して不覚にも興奮してしまっていたんだ

：僕がどれだけでもがいても触れることができなかった君が
他の男とそんな風に生々しいセックスをしているって思ったら
僕はなぜか勃起が収まらなくて…今も…

…えっ？ なにを言ってるのよ？
○○ おかしくなったんじゃないの？

はあ…はあ…

ちょ ちよつと…？
もしかして その息が荒いのって 本当に…？
どうか今してるの？



うん：ごめん：君が妊娠していることを知って
もう僕と一緒にいることが叶わないって思っ
ていま僕は本当に悲しくて涙が止まらないんだ

でも同時にすごく興奮してて：
今すぐオナニーをしたい衝動が抑えられなくて：

えっ……

○○ってこんな変態だったの？……き 気持ち悪い！

大好きな人からの突然の衝撃告白に、私は何も考えることができなくなってしまった。



それに僕は 君の旦那のように立派なオチンチンでもなく
小さいし細いしふにやチンだから…
しかも聞いてたみたいいきつと何回戦もできないだろうし…

君をエッチで満足させられる自信はないから…
だからやっぱり僕は君をこうして見守るのが
お似合いなんだと思う…

…何よそれ 私がどれだけ
アンタの事を想ってきたと思ってるのよ！

はあ…はあ…ごめん…京香…でも僕は…





もういいわよ!
アンタなんかもう知らないわ! さようなら!

私は怒りに任せて電話を切った。
色んな感情がぐちゃぐちゃになっていて
更に泣くのを抑えられなかった。

…うう……○○がぁんな人だったなんて…
私があぁの最低男と子作りすることがどれほど嫌だったと
思ってるのよ……！
○○の事を想ってどれだけ耐えたと思ってるのよ…

それを興奮するだなんて…！
ぁんな奴 もう知らないわ！うっ…うっうっ…



京香…くっ…ううっ…

僕の今の素直な気持ちを打ち明けると
京香は激怒して電話を一方的に切ってしまった。

あんなことを言っておきながら僕の方から連絡することは
できないし、あの様子だと京香はもう電話してこないだろう。

うっ…ぐすっ 京香に完全に嫌われちゃったな…
でも これでよかったんだ…
僕には何もかもふさわしくないんだから…くっ…ううっ…

でもこんな時でも勃起が収まらない。
本当に僕はなんて情けないんだろう。
だが今の僕には京香の事を思っこの愚息に手をかけ
落ち着かせることしかできなかった。

はあ…はあ…うう ううっ…京香…幸せにね…

そして、京香が妊娠したことを互いの両親に報告した。

報告を済ませたところ、両親は心の底から喜び盛大にパーティーをしたりと皆で喜び合った。

京香だけは終始心ここに有らずといった状態で何もかも諦めた様子だった。

まあ元彼と今後結ばれることは完全になくなった訳だから当然だと思うが。

願わくば男が産まれて欲しい。
そうすれば後継ぎ問題は解決し、安泰となる。
仮に女でもまた作ればいい問題だが。

そしてそれから約半年が経過した……



京香の腹の中で、新しい生命が、しっかりと大きく育っていた。

その状態での騎乗位姿は
母性と淫らさが同時に感じられて
なにか、とても不思議な感動があった。

あっ はっ はっ……んっ んっ……！



妊娠中なのに
頑張るじゃねえか 京香

体の具合は平気なのかあ？

子供がおなかに入っているせいか
処女だった時以上に
オマンコはきつきつで、具合がいい。

妊娠中のセックスで
産後にクライシスはよくある話だし
俺としちゃありがたい限りだけどクク



安定期になったら
またさせろって言ったのはアンタのくせに

本当 こんなことを
無理やりさせるなんて
最低っ！

京香はそう言っているが、腰の動きは
快楽を求めるその動きだった。



京香は妊娠が発覚してからしばらくふさぎ込んでいたがその後吹っ切れたのか、出産を心から嫌がらなくなった。

そして俺に対する態度は相変わらずではあるが、なんとなくマシンになってきたように思える。

あ あっ んっ はあんっ♡

あんっ んっ んっ んっ♡

特に、こうして肌を重ねあっているときは以前よりも積極的だし、格段に感じるようになった。俺のチンコであつという間にアソコを濡らし、あまつさえ潮まで吹くありさまだ。



もちろん俺のテクにもよるところもあるだろうが
ずつと想ってきた元彼と完全に決別したというのが一番大きい
だろう。

彼女にとつて、元彼といつか結ばれたいという強い願望が
完全に堕ちなかった理由だったのだろう。
それが断たれたことで、完全にタガが外れたということだ。

それにしても腰を振る
動きがえげつねえなー

夫にご奉仕する精神が
芽生えてきたってことか？

妊娠発覚後、京香は元彼とひと悶着あったようで
以来そいつの事を一切口にしなくなった。
それとなく元彼の事を話してみても、嫌な顔をするだけだった。



だが京香には俺に黙ってピルを飲んでいたという前科がある。そうして元彼と決別したように思わせておいて、水面下で何か企んでいる可能性もあったから完全には信用できなかった。

だから俺は確信を得るために、京香のスマホを盗み見ることにした。

う
うるさいっ！
黙れクズっ！

出産が近くなつて女性ホルモンの
出方が変わってきたせいよっ！
男には分かんないわよ！

ロックを解除するのは容易ではなかったが、金の力で開発させた妊娠中の体調管理のアプリを俺に報告する為に必要だからと言って彼女にインストールさせ、そこからスマホの暗証番号を取得できるようにしたため後は楽だった。



そうして元彼とのL〇〇Eのやり取りがないかを
色々と探ってみたが、どうやら元彼の電話番号やアドレスや
L〇〇Eのアカウントごと完全に消してしまったようだ。

お？ なに？
今 ひよつとして認めたのか？

ま また 自分に都合がいい解釈をっ！
いいいからイけつてば！ あっ あんっ ♡

それどころか、京香はスマホ内でほぼ毎日日記をつけていて
当然元彼の事も書かれていたのだが、そこには元彼が俺と京香が
結婚して夜な夜な子作りしているのを想像し、無力な自分に悔しく
思いつつも興奮していたという衝撃の内容が飛び込んできた。



それを知った京香は、多少葛藤はあったものの、やはり完全に幻滅してしまったようで、連絡先をすべて消して決別を決めたようだ。

言われなくても今から
イツてやるさ
お前もオマンコビクビクさせて
一緒にイキたそうにしてるもんな

は…はあ？ あんっ あっ…
イクわけないでしょ こんな
あっ あああ…♡

その事実を知った俺は、これほど気分のいいものはないと、思わず
高笑いしそうになった。思わずそいつを呼んで俺たちの夜の営みを
生で見せつけてやろうかと思ったくらいだ。



クク！そいつを将来使用人として採用して あえて毎晩のように
行為を見せつけるのも悪くないかもしれないな！

いくら体の関係はなかったとはいえ、俺の大事な許嫁に近づいた
罪深いやつだ。そいつが惨めな思いを抱く前で夜な夜な京香を
犯すのは最高に気分がいいだろう。

強がるなよ お前の体は
夫の俺がよくわかってるんだからな

ほらっ
イクぞっ！！

あああああっ♡♡

今もまだ開発の途中だし、この最高の体にも飽きることは
ないと思ってるが、そのうち開発が完了し、更なる刺激を求め
たくなった時には是非実行したいものだ。



そして出産間近となり、京香は陣痛を繰り返していた。

はあ…はあ…

なんで病院じゃなくてここで出産するのよ…
しかもアンタの目の前で…





そりゃ俺は旦那なんだから
ここにるのは当たり前だろ？

それに何かあればすぐに医者を
呼んでやるから安心してここで産めよ

はあ…本当に最悪……



そんな風に文句を言っていると、再び陣痛に襲われたのか京香が苦しそうにする。

んっ……んんうっ!!



そして突如として破水が起こり、羊水が出てきた。

んあ…あああつ！



んあ あああつ...! ああ...!

お...そろそろ産まれそうか?

あああつ...う 産まれ...そうっ...! あああつ!

京香は今までに見たことが無いくらいに顔を歪め
必死で痛みと戦おうとしているようだ。

んああつ！ああああつ！

そんな中でいよいよマンコの入り口が開き、赤ん坊と思われる頭が見えてきた。

お…出てきてるぞ
よしそのまま思い切りきばるんだ

い言われなくてもっ…はあ…はあ…
んあああつ！あああああつ！



痛い！痛い！出産ってこんなに痛いの？
ヨイツは何人も作るって言うんだけど、こんなのもう無理っ……！！

あああつ！あああああつ！

んっ……ひっ……ひっ……
ひっ……ひっ……ふ……

そして京香は、事前に教わっていた出産時独特の呼吸法を思い出したのか
それをし始める。

これ以上はもうっ……お願い、早く終わって……



あああああつ！

おぎゃあ！おぎゃあ！

そして栓が抜けたように赤ん坊がずるりと降りてきた。



はあ…はあ…はあ…

お産まれたぞ やっぱり男だったか
これで俺たちの代になっても家は安泰だ
ははでかしたぞ京香

目の前の新しい生命の誕生に、俺は心から喜ぶ。
妻だけでなく子を入れることができ、すべてが俺の思惑通りに進んで
いつてとても気分がいい。

これでもう私は○○家の女として生きていくしかないんだなあ…
でもあの彼とはもう完全に別れたしこのまま私は家の一部になって
暮らしていけばそれで丸く収まるんだ！



それにしても 私の子供かあ…

こんな奴との子供ではあるけど それでも
こんな風に元気な産声を上げているのを見ると 少しじんときちやうな…
これが母性っていうものなのかな

京香はわが子を見ながら、嬉しそうでどこか悲しそうな顔をしているが
その胸の内は俺には容易に見て取れる。
だがこれで、完全に心も体も俺のものになったも同然と言えるだろう。



これからまだまだ子供を作らないとな
その為にはまた毎日種漬けの日々だな…
ふふ 嬉しいだろう？

嬉しいわけないでしょ？
この性欲の権化…！！

そんなことを言いつつも、チンコを挿れたとたんになんか乱れてしまうのが
コイツの可愛いところだ。
そして、子供を一人産む度に堕ちていく京香の姿を見るのが
今から楽しみで仕方がないな。

！そしてそこで覗き見ているであろう元彼も
一生そうして遠くから眺めているのがお似合いだな クク…！！





はあ…はあ…
京香が「僕じゃない人との間でできた子供を
頑張つて産んでいる」

僕は今部屋の外から、京香が出産する様子をコツソリと
ドアの隙間から覗き見ていた。

京香を怒らせてしまつて以来、僕は彼女と連絡をとつて
いなかったのだが、先日その京香の旦那と名乗る人から
急に電話が来た。

その時は、なんで僕の番号を知ってるのかという驚きだったり
京香と僕に繋がりがあったことがバレていたことに
本当にびつくりしてしまい、顔面蒼白になったのを覚えている。

そして京香の事でつきり怒られるのかと思つただけど
どういうわけか、京香には内緒でこの日に、コツソリと
この京香の住む家に来て、この部屋を覗くように言われていた。

意味が分からず、それでも彼にはすぐ後ろめたい
気持ちがあったので、大学を休んで言う通りにしてみれば
これだった。

はあ…はあ…くっ…うっ…

涙が止まらないのに
また興奮して勃起してる…
こんなのまた京香に嫌われてしまうのにつ…

僕はたまらず京香が出産する様子を見ながら
自分のイチモツをしこつていた。

はあ…はあ…くっ
京香…京香…

そして京香が出産すると同時に、僕も果ててしまった。

はあ…はあ…
うう…元気な男の子が産まれてる…

京香もなんか嬉しそうだ…
それなのに僕は…ここでこんなみじめなことをして…
なんて情けないんだ…うう…

そんなことを思いながら泣く僕だったが
興奮だけはいまだに収まる様子はなかった…

END